

久石譲：ジブリ作品の音楽

近年、日本を訪れる旅行者の主要な要因がアニメ作品の影響が多いとの事。とりわけジブリ作品の影響が大きく、それに伴う久石譲の音楽作品に人気が高いといわれています。

さらに日本音楽の J-pops も海外にファンが多く人気の的です。

この倶楽部の構成人員は主に 60 代過ぎが多く「今ある音楽」に関心が薄いと感じます。今やビートルズも古典、ブルーノートも古典に近く、60 年代の音楽も思い出の曲です。という言葉が適当でないとすれば郷愁の音楽です。

v 自戒の念も含め馴染むのが難しい現代の今の音楽も機会をあれば聞いてみたいと思います。暫くまえに久石譲が指揮する演奏会を聞きに行きました。この機会に彼を知り実際に新しく感じる音楽観を体験したのが久々の感動でした。此れを切っ掛けに今を生きる世代として今の音楽を聴く自分もかくありたいと思います。そんな中で久石譲の作品を聴く機会を取り上げる事になりました。

彼の音楽は欧州、米州、アジアで多くの演奏会が開かれ今や世界が注目する音楽家です。ジブリの音楽以外、ピアニスト、指揮者、現代音楽で名を馳せています。私事でありますが私の音楽試聴履歴は前回例会の当番でやっと戦後の代表的クラシック作品に辿り着きました。

未だ現代に 40 年程乗り遅れています。現代を代表する音楽は様々であり一概に言えませんが数千人から数万人を魅了する音楽会があります。ジブリの音楽もどの程度相応するか分かりませんが多くの聴衆を集めています。

そんな背景を思いこの機会にとりあげました。

<収録楽曲>

1. One Summer's Day (千と千尋の神隠し) 『Melodyphony』 (2010)より
2. Kiki's Delivery Service (魔女の宅急便) 『Melodyphony』 (2010)より
3. Confessions in the Moonlight (天空の城ラピュタ) 『Castle in the Sky』 (2002)より
4. The Wind Forest (となりのトトロ) 『Piano Stories』 (1988)より
5. 谷への道 (風の谷のナウシカ) 『空想美術館』 (2003)より
6. Fantasia (for NAUSICAÄ) (風の谷のナウシカ) 『Piano Stories』 (1988)より
7. il porco rosso (for NAUSICAÄ) (紅の豚) 『NOSTALGIA ～PIANO STORIESⅢ～』 (1998)より
8. Ponyo on the Cliff by the Sea (崖の上のポニョ)
- 『Another Piano Stories～The End of the World～』 (2009)より
9. 海のおかあさん (崖の上のポニョ)★初 CD 化
10. 人生のメリーゴーランド -Piano Solo Ver.- (ハウルの動く城)
- 『Piano Stories Best'88-'08』 (2008)より
11. もののけ姫 (もののけ姫) 『WORKSⅡ』 (1999)より
12. アシタカとサン (もののけ姫) 『ENCORE』 (2002)より
13. My Neighbour TOTORO (となりのトトロ) 『Melodyphony』 (2010)より

久石譲氏が手掛けたスタジオジブリの音楽は、時代ごとに編成や音楽的アプローチが大きく進化しています。**80年代はシンセサイザーを中心とした実験的サウンド、90年代は本格的なフルオーケストラへの移行、2000年代はトイピアノやミニマル・ミュージックを融合させた独自のスタイルが特徴です。**

年代ごとの代表作と音楽的特徴のまとめは以下の通りです。

80年代:シンセサイザーと実験的ポップス

80年代は、当時の最先端技術であるシンセサイザー(電子楽器)と打ち込みを多用し、キャッチーなメロディと実験的なサウンドを融合させた時代です。

- **風の谷のナウシカ** (1984 年)
 - **特徴:** シンセサイザーによる未来的かつ退廃的なサウンドが中心です。『王蟲の交流』では当時 5 歳だった娘の藤澤麻衣氏の歌声を起用するなど、実験的なアプローチが光ります。
 - **天空の城ラピュタ** (1986 年)
 - **特徴:** シンセサイザーをベースにしつつも、ブラス(真鍮楽器)の音を効果的に使い、冒険活劇にふさわしい躍動感を演出しています。主題歌『君をのせて』の原型となるメロディが随所に散りばめられています。
 - **となりのトトロ** (1988 年)
 - **特徴:** 子供が口ずさみやすいポップでおおらかなメロディが特徴です。サンプリング技術を駆使し、日常の温かみとファンタジーを電子音で見事に表現しています。
 - **魔女の宅急便** (1989 年)
 - **特徴:** アコーディオンやマンドリンの音色を取り入れ、ヨーロッパの異国情緒あふれる街並みを表現した、非常におしゃれで軽快なサウンドです。
-

90年代:フルオーケストラへの回帰と重厚感

90年代に入ると、電子音から**生楽器によるフルオーケストラ編成**へと完全にシフトし、映画のスケール感に合わせたドラマチックで重厚な音楽へと進化しました。

- **紅の豚** (1992 年)
 - **特徴:** アコースティックピアノと管楽器を主体とした、大人の哀愁漂うジャズ・クラシック調の音楽です。1920 年代の地中海の雰囲気が見事に表現されています。
 - **もののけ姫** (1997 年)
 - **特徴:** 久石ジブリ音楽の金字塔であり、**完全なフルオーケストラサウンド**へと舵を切った作品です。和楽器の要素を取り入れつつ、生楽器の圧倒的なダイナミクスで、生と死、自然と人間の対立という重厚なテーマを壮大に描き出しました。
-

2000 年代:ミニマル・ミュージックの融合と原点回帰

2000 年代は、久石氏の本領であるミニマル・ミュージック(音のパターンを繰り返す現代音楽)の技法や、素朴な楽器を用いた「引き算の美学」が特徴です。

- **千と千尋の神隠し (2001 年)**
 - **特徴:** 静けさと躍動感のコントラストが美しい時代です。ピアノのソロから始まり、徐々に壮大なオーケストラへと広がっていく『あの夏へ』に代表されるように、ノスタルジーと和のファンタジーが融合しています。
- **ハウルの動く城 (2004 年)**
 - **特徴:** メインテーマ『人生のメリーゴーランド』のワルツ(3 拍子)の変奏曲だけで映画 1 本のほぼすべての劇伴を構成するという、極めて高度な音楽的実験が行われました。
- **崖の上のポニョ (2008 年)**
 - **特徴:** デジタルシンセサイザーをあえて一切使わず、すべて生楽器の演奏にこだわった原点回帰の作品です。トイピアノやリコーダーなどを導入し、子供の視点に立った素朴でダイレクトな響きを追求しました。